

# 高砂青松

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan

## Rotary Club



手を貸そう  
LEND A HAND

2003～2004年度国際ロータリーのテーマ

⑥ 森下 一 (神経内科医) 「不登校児」が教えてくれたもの (グラフ社)  
 多くの人々は、合理に従い、再び登校できるようになることを「治療」と呼んだ。しかし、わたしは子どもたちの魂の再生に力を注いだ。子どもと「共死」を覚悟してこそ「共生」できる。心の底から安心し、信じることのできる家族があつてはじめて、子はどこまでも自立への旅へと向かい得るものなのだ。

⑦ 影山任佐「空虚な自己の時代」NHKブックス  
 生きがいや希望を見つけていない子どもたちは、何をするという事もなく、ただ社会に浮遊している。生きる目標意識が沸かない。「自己空虚感」に陥る。幼いときに思うようにできた行動 (幼児万能感) が少年期になっても抜けぬままに振る舞う (お殿様、裸の王様)。こわい者知らず。犯罪や非行を犯すことによって自己の存在をアピールする。それは許される行為ではない。それゆえにこそ少年期に自己の社会的有用性を自覚させることが大切になる。

### 例会記録 (2003. 9. 19 (金)) 通算1227回

ソング 「我等の生業」 「歓迎歌」  
 本日のゲスト 梶原康史先生 (元武庫川女子大学文学部教授)  
 来訪ロータリー (9月17日分)  
 アン報告 中井 實 様 (姫路R.C.) 松尾 京一 様 (姫路西R.C.)  
 室田 隆重 様 (姫路中央R.C.) 八若 功 様 (姫路中央R.C.)  
 藤田 和雄 様 (明石北R.C.) 源 吉嗣 郎 様 (明石西R.C.)  
 萬山 忠彦 様 (高砂R.C.) 庄 司 治 様 (高砂R.C.)  
 西川 敏彦 様 (高砂R.C.) 中村 卓 様 (高砂R.C.)  
 大村 泰司 様 (高砂R.C.) 脇谷 政孝 様 (高砂R.C.)  
 砂川 次善 様 (高砂R.C.) 桂田 重信 様 (高砂R.C.)  
 佐野 敏晴 様 (高砂R.C.) 二見 博 様 (高砂R.C.)  
 藤本 実 様 (高砂R.C.)

出席報告 9月3日 会員数49名 欠席者1名 出席率97.96% <修正による>  
 (田中) 9月19日 会員数49名 欠席者20名 出席率59.18%

#### プログラム予定

9月19日 (金)	9月24日 (水)	10月1日 (水)	10月8日 (水)
高砂R.C.との 合同例会 於：高砂神社会館	卓話 志方正昭 会員	職業奉仕委員会担当	卓話 庄司 武 会員

会長 田水敬雄 幹事 内橋英昭 クラブ会報委員長 大橋卓司  
 例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室 (2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (0794) 43-0500(代)

ニコニコ報告

高砂ロータリークラブ会長

小松守道 …… 皆さんようこそ合同例会へお出で下さいました。又、本日の講師 梶原康史（かじわら やすふみ）先生をお迎えして。

高砂R.C.幹事

野々村幸三 …… 本日は合同例会で大変御世話様に成ります。今後共どうぞ宜しく御願ひ申し上げます。

森本克己 …… R.C.シニア会200回記念ゴルフ大会にて優勝させて頂きました。

植杉安夫 …… 昨日のシニアゴルフで大変お世話になりました。三宅礼三さんに1つ負けたのがチョッピリ残念でしたが…。

三宅礼三 …… 昨日R.C.シニア会ゴルフクラブ200回記念を開催し、夜懇親会には田水会長ご多忙の処ありがとうございました。

鹿間行雄・鹿間虹美

…… 今日のは新世代の為の月間行事で喜始先生大変お世話になります。

大森明夫・藤本 顕・西中亮二・植杉 成一郎・

辻田重恵・田中伸明・小西文孝・亀本泰司・

大橋卓司・庄司 武・都倉達殊・大森千里・

栗原康高・澤田孝彦・西田光衛・増田耕太郎・

佐野栄作 …… 合同例会を祝して。

森脇祥文 …… 合同例会を祝して。

内海 薫 …… 早退します。

幹事報告

第11回 通算1165回

1. 西脇ロータリークラブより

創立40周年記念誌が届いております。

姫路東ロータリークラブより

創立30周年記念誌が届いております。

2. 相生ロータリークラブより

7月・8月の週報が届いております。回覧させていただきます。

会長の時間

高砂R.C.の小松会長より、本日の講師である梶原康史先生に対する講演への期待をお話しされました。

本日のプログラム

演題「畏敬（おそれ）を知らぬ子どもたち」

講師 元武庫川女子大学文学部教授

講師プロフィール

梶原康史先生

元武庫川女子大学文学部教授

◇略歴

昭和24年4月 公立高校教諭

昭和38年4月 兵庫県教育委員会事務局指導主事、～管理主事等

昭和51年4月 同 義務教育課長

昭和54年4月 同 教育次長

昭和57年4月 兵庫県立教育研修所長

昭和58年4月 文学科学省初等中等教育局・助成局視学官

昭和61年4月 武庫川女子大学文学部教授

（平成10年3月まで附属中学高校長兼務）

平成15年3月 同大学退職

◇関係役所等

文学省高校改革推進会議委員、指導要録改訂協力者会議委員

学校不適応対策協議会委員、研究開発学校企画評価協力者会議委員等歴任

1. 問題行動の現状（文科省調査 03.8.22発表）△＝減少

暴力行為 33,765件 前年比△11.7%（2年連続減少）

いじめ 22,207件 △11.3%（7年連続減少／ピーク時の約1/3に）

中途退学（公私高校）89,461人 △14.7%（多いとき12万人）

投稿拒否（不登校）131,211人 △5.4%（昨年度に続き減少傾向）

（数値は必ずしも実態を反映しているとは言えない。[異常なしに異常あり]）

2. 少年犯罪に対する基本的課題（別紙）複合汚染環境を生きる

3. 良心の形成過程

①幼少期こそ（臨界期・適時性）②繰り返し・その都度（反復・徹底の原理）



(1) フロイトの精神分析

ES (エス) = ID (イド) 快楽原則 (本能的衝動のままに行動しようとする)

ego (エゴ) = 自我 現実原則 (IDと超自我とを調整して行動)

super-ego (超自我) 良心 (日常生活環境からの刺激によって形成、自己に対し裁判官的役割を果たす。)

良心の声 モーゼの十戒 (後半) 父母

を敬え、禁殺人、禁姦淫、禁盗み、  
禁偽証、禁貪欲、

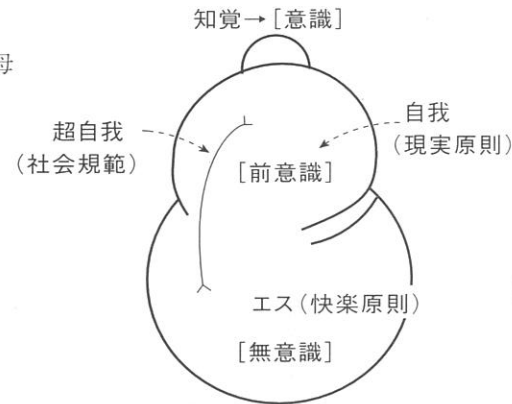
仏教の十善戒 弟子某甲尽未来際

不殺生 不偷盜 不邪淫 不妄語

不綺語 不惡口 不兩舌 不慳貪

不瞋恚 不邪見

絶対禁止を命じる心 (父性の原理)



(2) 子どもの道徳性発達課題 (鈴木清 1962)

① 幼稚園以前 (0~3歳) 無道徳の段階

スキンシップ (愛情による親や大人への信頼)

② 幼稚園期 (3~5・6歳) 権威道徳の段階

大人の是認と非認によって行動が決まる。

③ 小学校前・中期 (6~10歳) 仲間道徳の段階

仲間の規約が強制力を持つ。

④ 小学校後期・中学 (10~14歳) 口先道徳の段階

言葉の上では善悪の判断がつく。

⑤ 中学・高校 (14~18歳) 矛盾道徳の段階

思想と行動が善悪の両極に動揺しやすい。

⑥ 青年期 (14~成人) 自律道徳の段階

自ら判断したことを自主的にとり、悪を避けようとする道徳基準に従う。

4. 良心が育つ生活環境 (母性的環境)

やさしさや寛大さ、笑い、ほほ笑みの心情 (信頼されている安堵感)

① 乳幼児期のスキンシップ

小林 登 (国立子ども病院名誉院長) 「笑いと治癒力」 (信頼感の源泉)

② ピグマリオン効果 (信頼と寄り添い) ローゼンザール&ジャコブソン

(別紙) 少年犯罪に対する基本的課題 まとめ 梶原2002  
(複合汚染環境を生きる)

① 斉藤 孝 (教育学) 「子どもたちはなぜ切れるのか」 (ちくま新書)

戦後50年の教育は個性や自由を強調してきたが、規律や礼儀といった「型」のもつ教育力を甘く見てきたところに大きな落とし穴があった。

挨拶が習慣化して人々とのコミュニケーションが円滑になる。背筋を伸ばして正座するところに生活の緊張感が生まれる。万事、「型」のもつ意味を見直せ。

② 門脇厚司 (教育社会学) 「子どもの社会力」 (岩波新書)

社会力=人と人が繋がる力、社会を作っていく力。生まれた直後から他人との頻繁な相互行為を開始することによって高い能力 (対人関係) が開発されていく。

③ 河合雅雄 (人類学・生態学) 「子どもと自然」 (岩波新書)

「森に還ろうー自然が子どもを強くするー」 (小学館)

人間は、攻撃性を内在しているが、抑止行動を喪失しているので、常に攻撃性の抑制システム (しつけ、しきたり、規範、掟、道徳、制度、法律、組織、宗教など) を作り出す必要がある。攻撃性抑制機能はすべて学習によって、後天的に自分で身につけていかねばならない。 (神戸新聞2000.6.29)

④ 立花 隆 (評論家) 「環境ホルモン入門」 (新潮社)

環境ホルモン・エストロゲン様物質 (ダイオキシン濃度) の異常濃縮の影響で体内ホルモンのバランスが崩れて、拒食症、脅迫神経症、不安症、鬱状態を引き起こし、覚えが悪くなるLD (学習障害)、異常な暴力性をはらむ感情障害、意欲喪失の無気力症など強まっている。

⑤ 福島 章 (犯罪心理学) 「子どもの脳が危ない」 (PHP新書)

暴力は学習される。アニメや実写ドラマの暴力描写を見て、内的な攻撃性を発散させる反面、暴力的なイメージは乳幼児のソフトな脳に学習され刷り込まれていく。ゆえに第1にテレビで子守をさせない。第2に社会的なルールやマナーを守ることも今やマスメディアの責任であることを自覚しよう。